

旧宮塚町住宅での市民活躍のためのワークショップ

MIYAZUKA PROJECT NEWS LETTER

Vol.2
第2回ワークショップ



<企画>づくりは、次回の課題に！

昼の部、夜の部ともに、3ミッション(グループ)それぞれに多くの「やりたいこと」「できること」が出され、他のメンバーとの話し合いも活発に行われましたが、3つの輪が重なる「企画」をつくりあげるには、あと一歩至りませんでした。次回のワークで完成させることにしましょう！

第3回ワークショップのご案内

日時 11月8日(木) 13:00～・19:00～
会場 男女共同参画センター(公光町分庁舎北館)
テーマ 気になるケースをリサーチしよう！

次回までの宿題

それぞれが「いいね！」と
思う企画の事例を集めてくる。

来年3月まで、旧宮塚町住宅とあなたの「これから」を創るワークショップと相談会が開かれます。



ワークショップ開催日とテーマ

第1回 9/28(金) あなたのしたいことを再確認しよう！ **済**

第2回 10/19(金) あなたが求められていることはなに？ **済**

第3回 11/8(木) 気になるケースをリサーチしよう！

第4回 11/30(金) どうすればできるかを考えよう！

第5回 12/14(金) 自分の「これからプラン」を発表しよう！

2019年1月～3月 相談会(日時未定)

ワークショップの参加申込は締め切りました。

お問合せ/芦屋市役所男女共同参画推進課 芦屋市公光町5-8 TEL. 0797-38-2518

【開催日】
2018年10月19日(金)
・昼の部13:00～
・夜の部19:00～

【参加者】
・昼の部:16名
・夜の部:13名

70余年にわたり、市営住宅として役割を果たしてきた「旧宮塚町住宅」が、2019年春、芦屋市活性化の拠点として生まれ変わります。「MIYAZUKA♥PROJECT」は、その活用を含んだ市民活躍のための連続ワークショップです。

10月19日(金)に開かれた第2回のワークショップでは、「あなたのしたいこと、できること、求められていることを確認しよう」をテーマに、「シェア」というキーワードで3つの輪を完成させている東村奈保さんのお話を聞いた後に、3グループに分かれて3つの輪を埋めて企画にまとめるワークをしました。

1 振り返りとこのWSについての確認

- ①第1回WSの内容を、ニュースレターを使って振り返りました。
- ②このWSの位置づけや、リノベーション後の旧宮塚町住宅との関係について整理・確認しました。

MIYAZUKA♡PROJECT
について

Q.何のためのワークショップですか？

A.このようなワークショップ(WS)ではありません。

- ・市の施策やしたいことをお手伝いするためのWSではありません。
- ・市に何かを要求するためのWSではありません。
- ・補助金・助成金をもらえるようになるためのWSではありません。

Q.何のためのワークショップですか？

A.このようなことを目指したWSです。


- ・何かをやりたい人が、それをかなえるための方法やヒントを見つけるためのWSです。
- ・何かをやりたい人が、それを手伝ったり、補ったりしてくれる仲間や友達を見つけるためのWSです。
- ・何かをやりたい人を手伝ったり、補ったりすることが好きな人が、応援する相手を見つけるためのWSです。

Q.旧宮塚町住宅との関係は？

A.「何かをやりたい人」がそれを実験したり、体験したりする場所のひとつが、リノベーション後の旧宮塚町住宅です。

旧宮塚町住宅を使わなくてはいけないことはありません。逆に、必ず使えとも限りません。でも、せっかくWSと一緒に考えたり学んだりした皆さんが「使いたい」と思うなら、ぜひ使ってほしい、使えるようにしたいと思います。ただし、たぶん無料では使えません。また長く専有することもできません。旧宮塚町住宅はいろいろな人のやる気を、卵から雛にかえしたり、雛から幼鳥に育てたりするための場なので、大きくなったら巣だっていくことが前提です。

2 ゲストトーク



東村奈保さん
NPO法人ソーシェア代表理事・株式会社ヒトトバ代表取締役

神戸生まれ、神戸育ち。2013年2月、「シェアで社会問題を解決する」をテーマにNPO法人ソーシェアを設立、翌年よりシェアハウス事業を始める。2014年12月、神戸元町商店街にモノづくりクリエイターの展示販売シェアスペース「TuKuRu-ツクル-」の運営を開始。2017年4月、株式会社ヒトトバを設立。神戸元町5丁目にて、ひとつの店舗をシェアすることで誰もがお店を持てるしくみを取り入れた「シェアキッチンヒトトバ」の運営を開始。「やりたい！」を気軽に実現する場所があれば、まちはもっと面白くなるはずと考え、「シェア」をキーワードに、ヒトとコトとバをつなぐ役割を果たすことを目指している。

東村さんの話のまとめ

◎シェアをテーマにするようになったきっかけは、ある夜、コンビニで一人分のお惣菜を買っている老人の姿を見かけて、「自分が高齢になった時にパックのお惣菜を一人きりで食べる暮らしをするのは寂しくて怖い」そして「世の中にこんなにモノが溢れているのに、それを共有できない寂しさが蔓延している」と思ったことでした。「モノ」や「コト」や「バ」をいろいろな人とシェアしながら暮らしたら、経済的で便利なおうえに、楽しさも分かちあえ、社会の寂しさも減らせるかもしれないと思ったのです。

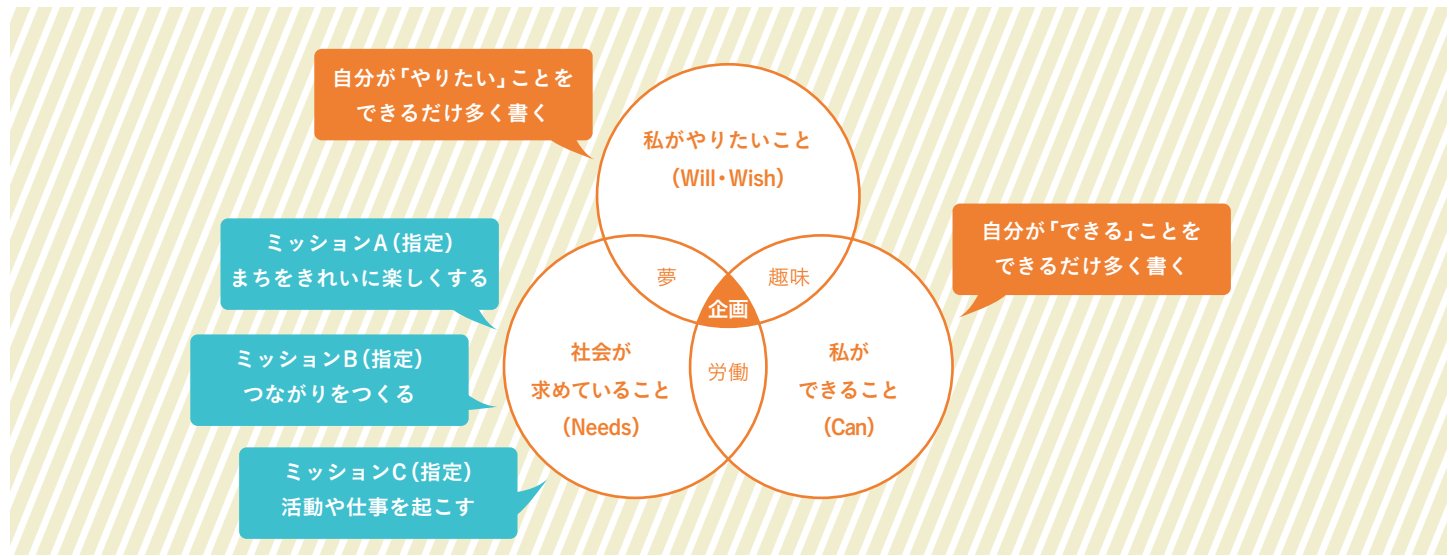


- ◎現在は、31名のクリエイターの作品に出会えるショップを併設したシェアスペース「TuKuRu」を神戸の西元町で運営し、さらに昨年、日替わりで料理人が変わるシェアキッチン「ヒトトバ」を立ちあげました。一人で店を立ち上げたり継続したりするのは大変ですが、シェアすることで実現の可能性が高まることを感じています。
- ◎店を共有(シェア)するとこんないいことがあると分かりました。
 - ①すぐに営業や活動が始められる。
 - ②スペースだけでなくお客も共有できる。
 - ③独立開業に関する情報が集まって来やすい。
 - ④協力者を得やすい。
- ◎私は「シェア」という方法を活用しながら、「何かをしたい人」を発掘してきました。それが私にとっての「やりたいこと」だったと思います。そしてこれからは、TuKuRuとヒトトバで蓄えた経験と知識をもっと多くの分野に応用して、

したいことのある人の夢を一つでも多くかなえる手伝いがしたいと思っています。それによって、自分も含めて周囲の人たちが「楽しんで働いて成長する」という人生を歩むことが社会貢献にもつながるのではないかと思いますし、それが、私が社会から「求められていること」だと感じています。



3 今日ワーク 3つの輪を完成させよう



東村さんのトーク内容を参考にしながら、「したいこと」「できること」「求められていること」の3つの輪を完成させるワークをしました。「求められていること(ミッション)」については、あらかじめ次の3つが指定されています。
 ミッションA / まちを楽しくきれいにする
 ミッションB / つながりをつくる
 ミッションC / 活動や仕事を起こす

参加者は自分が達成したいミッションを選んで3グループに分かれ、「求められていること」が記入済の模造紙に自分の「したいこと」と「できること」をできるだけたくさん記入していきます。グループ内の他の人とも相談やコラボしながら、3つの輪が交わる真ん中の部分＝「企画」を見つけ出す試みをしました。